



山はどうしてあるの、どうやってできたの

火山の噴火をくり返してできる

山には、富士山のように、一つの山が独立してそびえているものや、たくさんの山がつながっている、山脈とがあります。

富士山は、火山の噴火によってできた山です。火山が噴火すると、火口から溶岩や火山灰などがふき出しますが、一度の噴火だけでは、高い山はできません。富士山は大きく分けて、3回の噴火によって溶岩が積み重なり、高い山になりました。

北海道の有珠山や、昭和新山のように、地中で固まった溶岩が、そのままおし上げられて、高い山になったものもあります。

火山は、ふつう、一つの山からできていることが、多いのですが、たくさんの山が重なった、火山帯からできていることもあります。

地殻の変動でできる

日本の北アルプスや、南アルプス、エベレスト(チョモランマ)山があるヒマラヤ山脈、ヨーロッパのアルプス山脈、アメリカ・カナダのロッキー山脈などは、火山のはたらきによってではなく、地殻の変動(状態がいろいろ変化する)によってできたものです。

このような山脈ができる前は、海底でした。地殻の変動によって海底がもり上がり、横から強い圧力(おしつける力)を受けて、地層が波形に曲がって山や谷ができました。

谷には川が流れて山はだをけずり、さらに谷を深くし、けわしい山をつくります。このように、山には、火山の噴火によってできたものと、地殻の変動によってできたものがあります。(監修・国司 真)

